

5月6日、オハイオ州クリーブランドの民家に約10年にわたり監禁されていた3人の若い女性の救出劇は全米に衝撃を与えた。身の毛もよだつような陰湿な犯罪に人々が言葉を失ういっぽうで、女性らが懐かしい我が家によく帰ることが出来た事実には安堵した。救出のきっかけとなったのは、3人の女性の一人のアマンダ・ベリーさんがドアを内側から激しく叩きながら助けを求め、それを聞いた隣人の男性であるチャールズ・ラムジーさんが急いで駆けつけドアを蹴破ったことに始まる。

実はこの時、彼は食事中で頬張っていた“ビッグマック”を脇に置いて救出に及んだらしい。で、このニュースを聞いた全米のSNSユーザーからマクドナルドに対し、ラムジーさんがマクドナルドを宣伝してくれたことに報いるべきだと訴える投稿が殺到。同社はこれに答える形で「来年1年間ビッグマック食べ放題」を確約し、行方不明になった子どもの捜索活動を支援している団体に1万ドルを寄付。さらに彼が皿洗いとして働くレストランでは「ラムジーバーガー」を販売開始したところ、クリーブランド中のレストランから同メニュー販売のオファーがラムジーさんに殺到。おまけに彼らは「一生ハンバーガー食べ放題」まで提示してきたのだ。ラムジーさんの慈善の行為が、今や多くの野次馬を巻き込む付和雷同のバカ騒ぎとなってしまう。

業を煮やした彼は、「俺はハンバーガーはもういらない。今回の被害者たちに役立つことをしてくれ。」と短いコメントを発表。これを見て、かつて歌手のマドンナが出産した際に世界中から子供服が殺到し、彼女が「服は要らないから貧しい人に寄付して」と言ったことや、日本でも「Pray for Japan」がブームになったりしたことを思い出した。

「施しをする時には、人に褒められたくて会堂や通りで施しをする偽善者たちのように、自分の前でラッパを吹いてはいけません。」マタイの福音書 6章2節

と、キリストが警告しているが至言である。困った人を助けるというのが慈善の基本であるはずだが、それが売名行為であったり、自己満足であったり、“お祭り”であったとしたら悲し

い。残念ながら真の慈善は、神でありながら自分を犠牲にして、十字架によって私たちを救って下さったイエスへの信仰を通してしか実行出来ないということを付け加えておく。

2013-6-21

